



一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会
 〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
 日本聖公会東京教区会館内
 3-6-18 Shibakoen, Minato-ku, Tokyo
 TEL 03-3436-4325 FAX 03-3432-1696
 http://www.brotherhood-st-andrew-japan.org

BSA 会報《季刊発行》

発行人 足立 征三郎
 編集者 萩谷 長生
 印刷所 株式会社スコポレーション

「自由な風のような」

BSA 本部チャプレン 司祭 フランシス 下条 裕章



ニコデモという人が、ヨハネによる福音書の3章に登場します。彼は当時のユダヤ教フアリサイ派またユダヤ人たちの議員であったとされています。律法から導かれる習慣を大切に守り、それを実践する日々を積み重ねてきた宗教人。またそのように身につけた生活の歩みによって議員として人望を得、社会的地位、経済的な豊かさも備えていたに違いありません。

民の指導的立場にある者として彼は、イエスの一連の動きに共感と魅力を感じていたのではないかと思われまふ。しかし一方で、フアリサイ派の一人としての立場や議員という社会的地位のゆえに、ありのまま自由に行動することもはばかられたのだと思います。彼は、日没から相当な時間がたつてから、あまり人目につかない夜にはじめて、ひそかにイエスのもとを訪ねました。

彼は、イエスへの賛辞と丁寧な挨拶をもって、対話を始めようとしています。しかしイエスは、そんな彼の賛辞や挨拶に何の関心もないかのように、直截にニコデモに向かって福音を宣言します。「人は誰も、新たに生まれなければ、神の国(神にかなる世界)を見ることはできない」と、そして「人は水と霊とによって生まれなにかぎり、神の国に入ることはできない」と。その言葉は、ニコデモに驚きと困惑を宿らせるものでした。

「新たに生まれる」「水と霊とによって生まれる」と聞いて、洗礼者ヨハネの洗礼のことやその悔い改めの勧めのことが連想されたことでしょうか。また霊や風の自由さを語る言葉は、ニコデモたちが、生活や習慣として大切に固め積み上げ、身につけてきたことがその意味を失うことになり、また指導者として維持しようとしてきた社会の秩序を崩壊させるもののように思えたのではなかったでしょうか。一方、

人びとを傷つける硬直した社会に對して、風のように自由で時に優しく激しく、まるでいのちそのもののような柔らかさ、傷つきやすさと力強さを示す霊の働きを希求する想いも生じたことでしょうか。心には様々な疑問や思いが残りました。この夜の二人の対話は平行線をたどり、ニコデモはその日、イエスやその教えに従い行く道に歩みだすことはありませんでした。

この後、福音書は、公平な手続をもつてイエスを判断すべきと主張するニコデモの言葉を、さらにアリマタヤのヨセフと協力してイエスの屍を墓に収める彼の姿を描き留めていまます。それは彼の歩みが徐々にイエスのもとへと引き寄せられていく過程と見ることもできます。そしてその様子は、その立場や人々の思惑、様々な思いに揺れ動き迷い、悔い改めと神への信従に疎い私たち自身の姿のようでもあります。

復活日は、キリストの死と復活にあずかる洗礼にふさわしい時とされています。入信の式を受けたものは、水の中に倒れ沈み、再び立ち上がらせられて、水と霊とによって生まれた者に神にのみ任せ、新しいいのちに生きる者とされます。イエスの死の意味をしっかりと受けとめ、聖霊によって復活のいのちの喜びに目覚めた者であることを改めて心に刻んで、私たちは主に従う道を歩んでゆきます。

(聖アンデレ教会 牧師)

2022年度事業活動・会計収支報告承認

— 第112定時総会 —

第112定時総会が2月25日(土)に日本聖公会東京教区会館で開かれ、2022年度事業活動報告を承認した。

続いて第1号議案の2022年度会計収支報告と余剰金の処分案を承認した。

大会には、議決権を持つ正会員175名のうち、委任状を含めて117名が出席、大会は成立した。

2022年度の事業活動では、信徒叢書・市原信太郎著『聖公会はじめの一步』(6月)の発行、10月には管区事務所矢萩新一総主事によるBSAセミナー「教えて、教区はどうなるの?」をズームで開催、80人近い参加者があった。

ズームの採用は初めてであるが、参加申込者のうち、およそ三分の一がBSA会員外であった。これはBSAの活動を知ってもらういい機会でもあったことを証明する。BSA活動の外縁を広げるものとして、今後ともズームの活用を広げる可能性を探っていく必要がある。

機関紙VISIONは、コロナ禍にあつても、年4回の発行を維持した。VISIONを手にする時、BSA会員であることを実感する」と、ある会員は述べている。

特別委員会の活動も特記に値する。2年間にわたり、鋭意課題に取り組んできた。特に、2022年度は9回にも及ぶ会議を開き、懸案の定款第5条の改定に一定の道筋をつけた。答申を受けた理事会は、時期を見て総会に提案すべく、さらに検

討を重ねていく。

その他、計画を立てたものの、コロナ禍のため、実施出来なかつた青少年キャンプや研修旅行、支部長会議等については、次年度の計画の中で、実施の可能性を探る。

第1号議案の会計収支報告では、収入が2,693,550円、支出が1,979,084円で、収支差額は714,466円となった。これに前期繰越金4,698,457円を加えた合計5,412,923円を次期繰越金に繰り入れることを承認した。

会計報告のあと、監事から、「事業活動報告は、法令及び定款に従い、法人の業務運営状況を正しく示しているものと認めます。」という監査報告が読み上げられた。

(理事 ダビデ吉松英美)

BSA信徒叢書 近く新刊

西原 廉太著

『キリスト教と科学』

キリスト教会は地動説や進化論とどう向き合い、対応してきたか。キリスト教と科学は矛盾するのか、両立し得ないものなのかなど、キリスト教と科学を巡る根本問題について古今東西の原書に直接当たり解き明かす。

BSAセミナーのご案内

主催	日本聖徒アンデレ同胞会 (BSA)	郵送先	〒105-0011 港区芝公園3-6-18 日本聖公会 東京教区会館内
後援	日本聖公会	氏名、教会名、参加方法	BSAセミナー係氏名、教会名、参加方法 (対面かオンラインか) を明記。
タイトル	「祈り・連帯ーテゼ共同体から学ぶー」	資料	オンライン参加の場合は後日メールで送ります。対面申込みの場合は会場でお渡します。
講師	植松 功氏 (東京・聖マーガレット教会・BSA会員)	参加費	無料
日時	5月27日(土) 午後1時	申込期限	5月10日(水)
会場	東京・聖アンデレ教会		
方式	対面+オンライン配信		
参加申込	オンライン参加の方はBSA本部へメールでお申込み下さい。 (mail.bsa@nssk.org)		

オンライン参加の仕方

日本聖公会東京教区・聖アンデレ教会ホームページにアクセス、「礼拝ライブ配信」をクリックしてください。

ポール・ラッシュの伝えたかったこと

公益財団法人キープ協会
ポール・ラッシュ記念館副館長・学芸員 秦 英水子



昨春秋、MJMのオンラインの集いで「ポールさんについて、今のキープ協会の活動について」の話を、というご依頼を受けました。

参加される皆さまの中には私よりも以前からキープ協会をご存知の方や実際にポール・ラッシュと一緒にされた方もいらっしゃるのですが、どのようなトピックが良いのかと考えた末、ラッシュが『最後まで貫いたこと』をお話しすることにいたしました。

太平洋戦争後、GHQ将校となつて日本に戻ってきたラッシュは、戦前にキリスト教青少年の指導者訓練キャンプとして建設した清泉寮を拠点とし、農村伝道と農村開拓をはじめました。

日本人の価値観が大きく変化する戦後、ラッシュは様々な活動を実行していく中で、青年たちが希望を持って生きていく世の中に必要なことは「草の根の民主主義」であると考え、生涯それを伝えようとしていました。

その活動の中に「弘道所」というものがありました。ラッシュがアメリカの支援者に寄付を募り、集まった寄付金と地域の方々の蓄えを合わせて民間主導で作った地域の公民館的な社会教育施設です。イエス・キリストが「のべ伝えよ」と言った際に両手を開いている光景を思い描いていたラッシュは、指の

数10本と同じ10か所に作つたと言われています。弘道所は、設置された地域の人々の中から男女の差なく委員会を組織し、自ら考え、話し合い、方向性を決め、実行し、地域レベルの小さな民主主義政府を住民主体で運営するものでした。

例えば、長沢弘道所には保育園が開かれたり、大泉弘道所ではそろばん教室が設けられたり、蔵原弘道所では養蚕が行われたりしました。その他にも映写機を運んでの映画上映、予防衛生や家族計画のための講話会など、地域住民の民度をあげるための場所としても機能していました。BSAの皆さまの中には、これらの弘道所をまわって地域の子供たちと集会を持ったご記憶がある方も少なくないのではないのでしょうか。

弘道所の活動の根本は「アメリカ式の民主主義」の影響によるところが大きいものでした。ラッシュはそれを「草の根の民主主義」と呼んで、日本中に民主主義を広めたいと思つていました。

真の民主主義とは、都市部においてのみ実行されるものではなく、清里のような山間部の村においてもしっかりと根付かせねばならないと考え、人々の自由と平等を守るための制度と考えていました。

ラッシュの弘道所の活動の狙いは、民主主義を実践・体験を経て体得する場所と仕組みを作ろうというのが始まりで、日本らしい民主主義（着物を着た民主主義と呼びました）を国民一人一人が自分たちのものにするものでした。ラッシュにとって、弘道所の運営は大きな挑戦でしたし、日本の人々に期待をし、

次世代を委ねる気持ちだったのです。2023年は戦後78年に当りますが、ラッシュの伝えたかった民主主義を私たちは実践できているのかと自問していきたいと思えます。

（編集部注）
* MJMとは「Metropolitan Japanese Ministries」の略称。ニューヨーク周辺で、教会と霊的奉仕活動を行っている聖公会の人たちの集まり。

日本に帰国した人々とZoomで毎月合同の例会を開いている。

BSA 100周年に向けて (連載第1回)

BSAが抱える課題を 皆で考えよう

理事 アブラハム 野田 徹
日本BSAは2027年に創立100周年を迎える。もちろんそれ以前、1894年（明治27年）にジョン・マキム主教の要請を受けて、米国BSAからチャールズ・H・エバンスが奈良基督教教会付属・奈良英和学校に派遣されたことが日本のBSA活動の始まりであると記録にあるが、『BSA 70周年史』によると、1927年（昭和2年）11月30日、ポール・ラッシュによって立教大学に米国BSAの日本支部発足と青年運動団体としてチャブレン山縣長老司式のもとに結成し、この年を日本BSAの創立年とすることにしている。

以来、幾度かの困難・危機を乗り越え、BSA会員による「祈祷と奉仕」をモットーにした活動は、現在に至るまでどうにか引き継がれてきたが、100周年を目前に我々がなすべき取り組みの一つとして、2019年12月から2022年11月までBSA理事会の中に特別委員会

が設けられた。現在のBSAが直面している様々な課題を整理し、解決のための改善提案をすることを目的として話し合いが重ねられ、その働きの中から提案された特に重要な課題について、今後VISION紙面において会員の皆さんとそれを共有し、考えてみたい。（つづく）

「BSAと私」(6)

若き日に出会った人々

聖アンデレ教会
ミカエル 松岡正治



卒業後同級の若生君 (左・現在仙台基督教会)と

私が立教大学に入学したのは70年目の昭和29年のことであり、すでに多くの朋友が天に召されてしまった。立教のBSAから日本BSAに入会する前後までに出会った方々のことなどを断片的に綴ってみた。

当時私が通っていたのは芝のアンデレ教会だったので、その雰囲気は延長線上にある大学にもすぐ馴染むことができた。入学後しばらくして、同期の井原泰勇さん（後の聖ルカのチャブレン）に奨められてBSA第2支部に入会した。ここでは特に佐伯正博さん（元第百生命役員）に親切に指導していただいた。

武藤六治主教は第3支部の所属で、小沢福夫会長の下で副会長を務められた。そのころ、ノール賞受賞の小柴博士の令弟も在籍し、かなりヤンチャながらフアーザー竹田に励まされて部員の勧誘に熱心であった。

その甲斐あってか学内の支部数も増えて12支部となったが、新たに入会した一人が甲藤善彦さんである。後日談であるが、私の勤務先のリゾート施設で爆発事故があり、そこにアルバイトとして来ていた立教の女子学生10数名が死傷する事件が起こった。その時、甲藤さんは大学側の窓口として交渉に当たり、私は会社を代表して事故処理を行う立場に立たされた。この補償交渉を通して彼の誠実さを痛感させられ、今もって感謝している。

私はYMCAにも所属していたが、年に一度BSAとの合同礼拝が開かれていた。礼拝後の懇親会の折、BSAは1年上の小沢さんが、そしてYMCAは私がそれぞれ代表を務めた。閑話休題。野球で有名になった長嶋茂雄氏は同じ年に立教に入学した。大教室では彼と同じ授業を受けることもあり、身近な存在であった。聖書の試験に出された設問「三位一体とは何か」に対し、「野球は九人一体です」と迷答案を書いて辛くも及第点を貰ったというエピソードは夙（つと）に有名である。

さて、私の父は昭和5年卒の同門で、小川徳治先生の1年後輩に当たる。その関係から先生には私も大変お世話になった。父は立教の絵画部に属していたが、部の創設の時には気鋭のポール・ラッシュ教授が初代部長であった。この父からポール・ラッシュの為人（ひととなり）をよく聞かされたこともよき思い出である。

私が立教を卒業したころ、アンデレ教会には豊原英三理事など日本BSAの有力会員がおり、迷うことなく入会させていただいた。爾来「BSAと私」との深い関わりは今日まで続いている。感謝。

（評議員）

★一般ご家庭の引越 事務所引越
★オフィスの引越 のエキスパート!!
★フロアーの移動
★各種展示会セッティング etc...

Gtec 株式会社ギンテック

港区港南3-4-12
TEL 0120-223-008
TEL 3471-5313

ホームメイド・チーズケーキの店

CHEESE CAKE
JOHANN
HOME BAKED MADE

目黒区上目黒1-18-1
TEL 3793-3503

立教企画グループ

学校業務受託、人材派遣等承ります。

株式会社 立教企画
株式会社 立教オフィスマネジメント
株式会社 立教ファシリティマネジメント
株式会社 立教ライブラリーマネジメント

http://www.rikkyo-planning.co.jp

St Luke's
会員制健康クラブ
聖路加フレンズ

TEL 03-3541-1056
受付時間 平日9:00~16:00
https://www.stlukes-friends.com/

<p>主のご復活、ハレルヤー 主教 バルナバ 武藤 六治 本部チャプレン</p>	<p>イースター おめでとうございます テレジア 星野 直子 星野道夫事務所 市川聖マリヤ教会</p>	<p>祝ご復活 ルカ 永井 信行 東京・三光教会</p>	 <p>2023年</p> <h1>祝ご復活</h1> 	<p>イースター おめでとうございます impulse corporation 株式会社 インパルスコーポレーション 代表取締役 後藤 智治</p>	<p>主はまことに、まことに よみがえられたハレルヤ クレメント 国見 登 立教学院諸聖徒礼拝堂</p>	<p>Христось воскрес! Воистину воскрес! ハリストス復活! 実に復活! ロシアレストラン チャイカ 高田馬場駅前 F1ビル2F ウィリアム 麻田恭一 (インマヌエル新生教会)</p>
<p>祝ご復活 オーガスチン 村瀬 俊幸 長坂聖マリヤ教会</p>	<p>祝イースター 初めに帰ろう ミカエル 松岡 正治 聖アンデレ教会</p>	<p>祝イースター ヨセフ 永井 寛泰 インマヌエル新生教会</p>		<p>イースター おめでとうございます 司祭 サムエル 小林 祐二 清里聖アンデレ教会</p>	<p>共に人生を見つめよ (コヘレトの言葉9章) ダビデ 倉石 昇 BSA顧問 千葉復活教会</p>	<p>祝ご復活 ミカエル 蘆田 信裕 (画号 松巖) 柏聖アンデレ教会</p>
<p>祝ご復活 ステパノ 元田 充隆 公益財団法人 キープ協会 理事長</p>	<p>イースターおめでとうございます 支えられて五十周年 銀座朝禱会 原則毎月第二・第四火曜 朝8 世話人 アブラハム 松田 正人</p>	<p>ご復活 おめでとうございます アブラハム 野田 徹 清里支部長 清里聖アンデレ教会</p>		<p>復活の恵みと喜び モーセ 酒井 健 福岡聖パウロ教会</p>	<p>祝イースター アンデレ 黒田 哲朗 BSA顧問 立教学院諸聖徒礼拝堂</p>	<p>祝ご復活 マルチン 足立征三郎 聖マーガレット教会</p>
<p>祝ご復活 クリストファー 湯田 啓一 柏聖アンデレ教会</p>	<p>祝イースター ヨハネ 松平 謙次 インマヌエル新生教会</p>	<p>祝ご復活 テモテ 萩谷 長生 柏聖アンデレ教会</p>		<p>み子の力ある復活 セオドル 佐久間達也 インマヌエル新生教会</p>	<p>祝ご復活 リチャード 倉辻 明男 聖アンデレ教会</p>	<p>祝ご復活 ヨセフ 秋山 献之 福岡聖パウロ教会</p>
<p>祝ご復活 アンデレ 湯田 正範 東京聖三一教会</p>	<p>イースターおめでとうございます ステパノ 丸茂 晴彦 (インマヌエル新生教会支部) 立教学院諸聖徒礼拝堂</p>	<p>祝イースター 聖路加国際病院 BSA聖ルカ礼拝堂支部 支部長 ベテロ 早川 潔</p>		<p>祝ご復活 クリストファー 鳥崎 敏彦 聖マルコ教会</p>	<p>祝イースター ヨハネ 桑田 秋光 公益財団法人 キープ協会 副理事長</p>	<p>祝ご復活 アウグスチヌス 岩間 光雄 北総支部長 松戸聖パウロ教会</p>
<p>祝ご復活 ダビデ 吉松 英美 聖オルバン教会</p>	<p>Happy Easter! BSA南町田支部 折戸・小出・中野・ 野田・細田・古谷・ 松田・三村・森田・ 矢久保・吉田</p>	<p>祝ご復活 テモテ 早野 勝徳 横浜聖アンデレ教会 (横浜支部)</p>	<p>祝ご復活 ステパノ 高橋 保 横浜聖アンデレ教会</p>	<p>イースター おめでとうございます パウロ 小出 康之 真光教会</p>	<p>主のご復活を心から お祝い申し上げます マッテヤ 尾崎 茂雄 横浜聖アンデレ教会</p>	
<p>祝御復活 アルベルトサムエル 渡辺多茂夫 藤沢聖マルコ教会</p>	<p>イースター おめでとうございます 修女 マリヤ 宮崎 靖子 社会福祉法人神愛会</p>	<p>Happy Easter! BSA房総支部 支部長 池田 稔 他19名</p>	<p>祝ご復活 ベテロ 永井 直行 千葉復活教会</p>	<p>祝ご復活 ヤコブ 後藤 務 東京聖三一教会</p>	<p>祝ご復活 ダビデ 木島 出 阿佐ヶ谷聖ベテロ教会</p>	

支部だより

BSAの「A」として

福岡支部長

モーセ 酒井 健



外池圭二、秋山献之両先輩の後を受けて福岡支部長を引き受けてからの一年を振り返る。

最初の仕事が福岡キリスト教一致祈禱会であった。例年1月に聖公会、カトリック、バプテスト、日本基督教団の4教派合同のキリスト教一致祈禱週間礼拝が行われる。支部長就任早々司会を務めた。他教派の人たちと交わる中で、キリスト者としての共通意識に触れることができた。

教会では、昨年に引き続き信徒奉事者と教会委員（礼拝担当）、そしてボランティア活動「おにぎりの会」リーダーを仰せつかった。礼拝担当としては、聖書朗読や案内係を、これまで担当することがなかった信徒にお願いし、なるべく多くの人が礼拝と一緒に作っているという喜びと参加感を感じてもらおうように心掛けた。教区広報部長として最後の年を迎えた。コロナによる制限が徐々に緩和され、対面形式での行事も少しずつ復活。参加者の写真を多く掲載することができた。

2023年からは教育部の責任を負うが、対面形式での楽しいイベントを作っていきたいと思う。

年間を通してBSAと名の付く活動は、VISION180号で報告した「恵みと喜びの分かち合い」と、3年ぶりに開催した教会バザーでの奉仕ぐらいであったが、その他の活動においても、だれかを主のもとに連れていくという、BSAの「A」（アンデレ）の働きを意識するようになった。

現在わたしの中の「A」は大齋節の中を奔走している。復活日にだれを連れてこようか。喜びの中を「A」は今日も走る。（福岡聖パウロ教会）

寄稿 横浜寿町

インマヌエル新生教会

ヨハネ 松平謙次

VISION181号の「ビジョン広場」に染谷神学生が横浜寿町での活動について寄稿していますが、「管区事務所だより」1月号にも北関東教区の松浦司祭がこの地で行われた人権担当者の集いに関するレポートで寿町についてかなり詳しく書いています。

ここは東京・山谷や大阪・釜ヶ崎と並ぶ、いわゆる「寄せ場」の代表のような地区ですが、私の初任地（横浜の公立中学校）はここと学区が隣接していたので懐かしい場所です。その頃（1960年台後半、昭和40年台前半）とどのくらい変わっているか分かりませんが、松浦レポートによれば、山谷が老人と福祉の街になったのと同じよう

な変遷を辿っているように思われます。このレポートを読んだのがきっかけになって再訪したいと思ひ、2月下旬に久しぶりに寿町界隈を歩いてきました。

横浜市中区は繁華街として有名な伊勢佐木町から羽衣町、蓬来町、不老町、長者町、寿町とめでたく縁起のいい名の町名が続きますが、寿町一帯は、私にここに隣接した地区で働いていた頃は、人々から一種異質な街と受け取られていたように思います。朝から酔っ払って路上で寝ているおじさんを見かけることとはまれではなかったし、桜木町駅からタクシーに乗っても寿町の手前までしか行ってくれないということもありました。物の値段を単純に現在と比べるのは難しいですが、ここでは確かモツ焼きは1本5円、うどん1杯50円だったような記憶があります。「ドヤ」と呼ばれる簡易宿泊所がぎっしりと並び、家出した子どもの手がかりを探してドヤを訪ね歩いたこともありま

した。今回訪ねた時は、街全体が小ざれいで清潔になって印象がありました。ちなみにちょっと覗いた簡易宿泊所は一泊1,700円でした。昼間だったせいもあり、さすがに路上で寝ているおじさんはいませんでした。街なかを歩いたら「寿町健康福祉交流センター」と



職安の寿町での朝の風景

町健康福祉交流センター」と

いう立派な建物が目にはいったので、見学しようと思ひに入ってしまった。パンフレットなど見ていたらスタッフの方に声をかけられて、つい話しこんでしまいました。

—つづく—
(理事)

銀座朝禱会50周年 記念祈禱会開催

銀座朝禱会世話人

アブラハム 松田正人



様々に変わってきて、会の思い出深い時期は出席者それぞれに違っていたりも、継続は力なり、コロナ禍の中断を乗り越えて第1036回の銀座朝禱会です。いつものように式文に沿って祈り、聖書日課箇所を輪読し、代禱をささげ、聖歌も歌いました。その後に昼食をともにして記念撮影をいたしました。天に召された先人方への思いも新たに、今後も宣教伝道の意思を確認する通過点となりました。

主に感謝
(理事) 真光教会

テゼ共同体について

聖マーガレット教会

ヨハネ 植松 功



テゼには、多くの青年たちが訪れます。夏にもなると毎週5千人近くの青年が世界各地から集まり、1日3回の祈りに連なり、聖書の学びや沈黙の時を過ごします。また毎年年末には、ヨーロッパのどこかの都市で青年大会を開催し、何万もの青年が出会い、共に祈りと巡礼の日々を過ごします。

5月末に開催されるBSAセミナー「祈り・連帯ーテゼ共同体から学ぶー」を担当することになっていきます。それに先立ってテゼ共同体に関して簡単に解説します。

テゼはフランスにある超教派の男子修道会です。1947年に創立され、現在、カトリックとプロテスタントを出身とする百数十名のブラザー（修道士）がおられます。

創立者のブラザー・ロジェは、スイスのプロテスタントの牧師の家に生まれ、1940年、25歳の時に、フランスの小村テゼ

に一人で移り住み、祈りと労働の生活を始めました。しだいに彼に共鳴する人たちが加わり、49年、7人のブラザーが献身の誓いを立て、修道共同体として発足。その後、カトリックのメンバーも入会するようになり、文字通り超教派の修道会になりました。テゼにとつて、祈りの生活と苦悩する人々との連帯は不可分で、ブラザーたちが最初に迎え入れたのは大戦で逃げてきたユダヤ人難民や孤児たちでした。昨年、ロシアのウクライナ侵攻の直後に、フランスで最初に難民支援の拠点を提供したのもテゼでした。テゼには、多くの青年たちが訪れます。夏にもなると毎週5千人近くの青年が世界各地から集まり、1日3回の祈りに連なり、聖書の学びや沈黙の時を過ごします。また毎年年末には、ヨーロッパのどこかの都市で青年大会を開催し、何万もの青年が出会い、共に祈りと巡礼の日々を過ごします。テゼはその祈りの歌でも知られていきます。聖書の短いことばを繰り返して歌うというシンプルな歌。それは言語、教派、年代の異なる人々が共に祈り歌うことを可能にします。また、祈りの中での沈黙のときが大切にされ、多くの青年たちは、テゼで初めて沈黙の豊かさを知ります。ブラザーたちの生活はシンプルで、共同体への献金は受け取らず、自らの労働によって共同体を支えています。今回のセミナーでは、祈りと連帯について学び、テゼの歌と共に祈りたいと思います。

清里高原だより 清泉寮ニューース

久々の集いの場所にうってつけ！ 明るい隠れ家 アンデレハウス

●清泉寮のアンデレハウスは、1960年に、日本聖徒アンデレ同胞会(BSA)様の専用宿泊施設としてOPENしました。その後、教会キャンプや、学校団体、企業研修など、多くのグループや団体のご利用をいただいております。

2017年には、耐震化工事も含めて、内装のリニューアルも行い、当時の温かみのある木造の雰囲気は残しつつ、明るい宿泊棟として、活躍中です。

様々な制限が緩和されつつある今春、左記のプランもご用意して、皆様の「聖地」での集いをお手伝いいたします。

●グループにおススメ！ 和室6部屋+ホール付まるまる貸切り素泊まりプラン

グループでの宿泊を伴う活動は、どうしても他の利用者が気になるもの。そこで、気おけない仲間だけで宿泊棟とホールを貸切にして、気兼ねなくお楽しみいただけるプランをご用意しました。

広い12畳の和室が6室に、暖炉やWiFiも完備されている約80㎡(約48畳)のホールには、祭壇やピアノも用意されています。専用駐車場に屋外の活動スペースもご利用いただけるのもとても便利です。もちろん、清泉寮新館の露天風呂付大浴場は



※休前日は、1万円追加
※お食事(別料金)ご希望の場合は、お問合せください。
問合せ先：清泉寮フロント
(0551-48-2111)

●春は駆け足！
標高1400メートルに位置する清泉寮は、一足遅く春が来て、そこから6月中旬の初夏の訪れまで、季節が駆け足で進みます。今回は清泉寮の春のトピックスをご紹介します。

4月上旬/下旬 桜咲く
麓の武川町の有名な神代桜が咲くのは4月上旬、桜前線は山を駆け上がり、北杜市内では4月いっぱい楽しめます。

GW 牛の放牧&ヘイライド
春本番となるGWは、ジャージーハット前での子牛の放牧とファームショップでのヘイライドが子供たちに大人気。

5月上旬 ヤマナシ開花
県名の由来とも言われる本部の前の樹に咲く白い花は必見。

5月/6月中旬 ツツジ開花
美し森を中心に、清泉寮周辺でも様々な種類のツツジを愛でながらの散策が楽しめます。

5月中旬/6月中旬 森の響宴
どこよりも早く鳴き出すエゾハルゼミ、高原に木霊するカッコウやホトトギスの囀り。

5月28日 「春のコンサート」
前号でお知らせ済みですが、宿泊プラン含めて好評受付中。問合せ先：清泉寮フロント
(0551-48-2111)



6月上旬 幻の青いケシ開花
メコノプシスの開花はこの頃。希少植物保護のため、鑑賞は、宿泊プランを含めた特別ガイドツアー参加者限定です。

神学校卒業礼拝

聖公会神学院第103回卒業礼拝が3月1日(水)聖公会神学院で行われ、パウロ福永 澄、セバスチャン染谷孝章両兄に卒業証書が授与された。



染谷兄(左)、福永兄(右)

説教に立った高橋宏幸東京教区主教は、「ここまで積み上げてきたものをさらに積み上げて欲しい。わたしたちは、イエスと福音に頼る他ない。批評家ではなく、みことばに従う道を歩いて欲しい。教役者の一日は、教会の門を開けることから始まる」とはなむけの言葉を送った。

BSAからは、足立征三郎会長、木島 出副会長、吉松英美理事が出席した。

京都のウイリアムス神学館でも3月10日(金)に第60回卒業式が行われ、ステパノ高野 洋(横浜教区)、サムエル藤井和人(京都教区)、ダビデ梁 権模(同)兄の3名が卒業した。

(理事ダビデ吉松英美)

「VISION」文芸

野田 徹
湯煙に燕飛び交う山の宿
春宵や地平に星のふたつあり
マスクして声高らかに復活祭

雲辺(松岡正治)
花冷えや貸出期限過ぎしまま
派出所はいつも無人や竹の秋
生き物の気配あちこち春の川
あちこちに笑顔の渦や復活祭
聖路加の十字架眩し春の朝

松平謙次
二月某日草津でマイナス十五度との報道
氷点下十五度という清泉園重監房のむごさを思う
(ウクライナ、シリア、トルコの人々に思いを馳せて)
彼の国の民の苦しみ思いつつ我が義援金些少を恥じる

高橋恵太郎
亡き友の庭に古木のしだれ梅ほのかに何を語りかけしか
菜の花と河津桜と富士の峰惜春に酔いし足柄の郷
往く春や青葉せかれし野に山に小鳥のささやき静かに流れ

吉松英美
新聞を読む人雑誌めくる人居眠りする人午後の図書館
バスに乗れば席譲らること多し斯く映るか我が老いを知る
神学生ゼロの時代に入りたるも我は憂うるこの危機感の無さ

理事会等実施報告

- (2023年2月/3月)
- 2月13日(月) (対面)
信徒叢書編集進捗状況報告
青少年キャンプリーダー訓練
実施計画について
- BSAの裾野拡大と顕在化
「響きあうBSA活動のため」
BSA100周年活動
研修旅行計画提案・検討
- 2月25日(土) (対面)
評議員会…
第112定時総会議案審議
理事会…
総会議案を総会に提出
- 3月13日(月) (対面)
VISION紙への「コラム」
掲載について
- 2023年度事業活動について

編集後記

・松岡正治兄の「BSAと私」(2面)の中で、長嶋茂雄ジャイアンツ終身名誉監督の学生時代の逸話が紹介されています。折しもWBCでサムライジャパン優勝。世間にはあまり知られていない名言「野球は九人一体です」を目の当たりにした試合でした。

・例年通りイースター号に会員等各位の名刺広告を掲載しました。皆さまのご協力で今年も48のマス埋めることができました。ありがとうございました。

(N・H)